

令和8年度 学校経営計画書及び学校評価計画書

1 経営理念

「光・風・音」のある学校

- ・可能性を最大限に伸ばし、一人一人が光り輝く学校・・・「光」
- ・地域に開かれ、組織的・協働的に取り組む風通しのよい学校・・・「風」
- ・温かな人間関係の中、明るい声が響き合う学校・・・「音」

2 教育目標

- (1) 校訓「質実剛健」(飾り気がなくまじめで、心身ともに強くしっかりしていること)
- (2) 学校教育目標 「自ら学び、心豊かで、たくましく生きる金津っ子の育成」

3 中・長期経営目標

<めざす児童像>

◎感(かん)じて進んで学ぶ子

- ・主体的に学び、知識・技能を身につけようとする (主体的な学び)
- ・友達と学び合い、課題を解決しようとする (協働的な学び)

◎仲間(な)かまを思いやる子

- ・分け隔てなく接する
- ・友達の良いところを認め、応援する

◎ねばり強(づ)よく取り組む子

- ・自ら考え行動する
- ・目標を持ち、最後まで頑張ろうとする

<めざす教師像>

- ・高い使命感を持ち、常に自己研鑽に努める教師
- ・子供の思いを受け止め、子供への働きかけを惜しまず、ともに成長を喜び合える教師
- ・組織の一員としての役割を自覚し、協働して学校運営を推進する教師
- ・家庭や地域から信頼を得られるように努力し、連携して児童の成長を目指す教師

<めざす学校像>

- ・「知識・技能」、「思考・判断・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱をバランスよく育成し、可能性を最大限に伸ばす学校
- ・子供を第一に考え、教職員が組織的・協働的に取り組む学校
- ・保護者や地域から信頼され、連携して子供達を育てる学校
- ・一人一人が大切にされ、温かな人間関係の中で、全ての子が安心して過ごせる学校

4 カリキュラム・マネジメント

(1) カリキュラム・マネジメントの柱

「自ら考え行動する力」の育成

(2) 現状

- 教師と児童が評価観点を共通理解してきたことで、4つの力への意識が定着してきた。
- 「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の3観点における力はついてきていると評価。
- 振り返りを充実させることで思考を見直したり、次時へつなげたりできるようになってきた。
- △「課題設定」が不十分である。(課題のもたせ方)

(3) 取組内容

- ・「課題を見出し、計画を立て、解決する力の育成」を日々の授業や行事・特別活動の中で意識して取り組む(課題解決型の学習、教科横断的な視点)。

- ・各観点で系統性のある児童の姿を共通理解をする。
- ・児童が視点を明らかにした自己評価と教師評価を行い PDCA サイクルを回しベクトルをそろえ改善していく。
- ・学校ホームページを窓口にも、全学年が計画的に地域の人材や恵まれた自然環境を活用した教育活動に取り組む。

5 短期経営目標（今年度の重点目標）

「子供達が行きたくなる学校、保護者が安心して行かせたくなる学校」

（★市重点目標における取組内容、下線は特に重点とする目標や取組）

（1）学力の向上

- ア 教科の見方・考え方に基づく「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、主体的で協働的に学ぶ子の育成を目指す。（★1）
- イ 振り返りの充実を図り、自己の変容への気付き、学習の深まりへの自覚をめざす。
- ウ 教科のねらいを達成するために一人1台端末を積極的に活用した授業実践をする。

（2）生徒指導の推進

- ア 「めあて」や「きまり」に対する自己評価を定期的に行い、よりよい行動への意識と実践力を高める。
- イ 生徒指導の4つの視点（自己存在感の感受・自己決定の場の提供・共感的な人間関係の育成・安全安心な風土の醸成）を生かした教育活動を通して、自他を大切にする心情を育成する。
- ウ いじめ・不登校・問題行動の未然防止、早期発見、適切な対応に努める。事案に対しては、迅速にケース会議を開催し、組織的に対応する。不登校に対しては、一人一人に応じた支援を組織的・継続的に行う。SSRを柔軟に活用する。（★2）

（3）情操豊かな心の育成

- ア 道徳の授業を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。
- イ 「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的体験、交流活動に取り組み、豊かな感性を養う。
- ウ 読書習慣の定着を図る。
- エ 幼小・小中の交流活動を通して、児童理解における情報交換を実施する。

（4）健康と体力の向上

- ア 「体力アップ1校1プラン」や「スポチャレいしかわ」への積極的な取り組み。
- イ 年間を通して授業や「風っ子タイム」「のびのびタイム」で体力向上の取組に努める。
- ウ 健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携してよりよい生活習慣の定着を図る。

（5）家庭や地域との連携

- ア コドモンでの各種たよりやホームページ等により、積極的な情報発信を行う。
- イ コミュニティスクールの活用により地域の特色を生かした学びの場を設定する。

（6）多忙化改善と人材育成

- ア 効率的効果的な働き方を意識した業務内容の見直し、及び定時退校日、学校閉庁日の意識化を図り、時間外勤務時間80時間越えゼロ、年間360時間以下を目指す。（★3）
- イ 学級経営や学校運営への参画意識を高められるよう業務を担当する。
- ウ 全教職員対象のOJT研修会を計画的に開催する。